



松江市公共交通利用促進市民会議（計画策定事業）の概要

松江市の概要

山陰地方のほぼ中央、島根県の東部に位置しており、市街地は大橋川をはさんで南北に広がっています。
平成17年に8市町村が、平成23年に1町が合併して現在の市域になっています。

●人口	204,247人	●面積	572.99km ²
-----	----------	-----	-----------------------

1世帯当たり人員
H25.9.30

2.4人 (住民基本台帳登録)

人口密度
(1km²当たり)
H25.10.1

360人 (住民基本台帳登録)

1世帯当たり乗用自動車数
(概算を含む)
H26.3.31

1.6台



国宝 松江城

松江市公共交通利用促進市民会議の概要

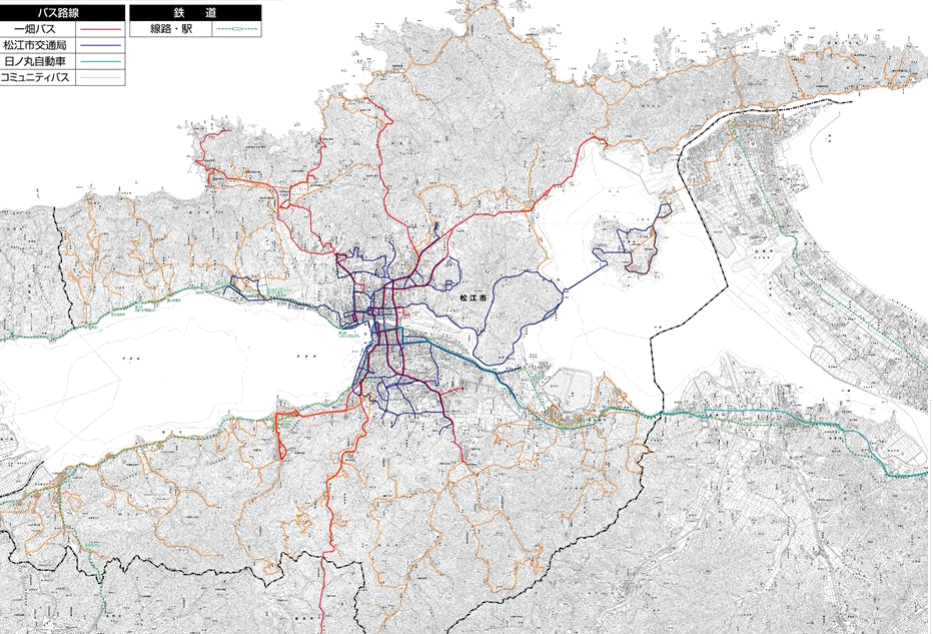
平成18年度策定の松江市公共交通体系整備計画に基づき平成20年に設置され、『市民・企業・交通事業者・行政』の協働により、運行の効率化やサービスの向上、利用促進等に取り組んできました。

●構成員 委員29名 ※事務局のぞく

- 市民：一般公募、自治会、利用促進協議会、学識経験者など
- 企業：商工会議所、観光協会など
- 交通事業者：一畑バス(株)、松江市交通局、日ノ丸自動車(株)、J R西日本、一畑電車(株)、隠岐汽船(株)、旅客自動車協会
- 行政：島根運輸支局、松江国道事務所、県土整備事務所、松江警察署など
- 事務局：松江市歴史まちづくり部都市政策課交通対策係

- ★平成22年 J COMMマネジメント賞受賞
- ★平成28年 第8回E S T交通環境大賞 優秀賞受賞

公共交通網図（松江市全体）



松江市の公共交通の現状

松江市の公共交通網は、バス（路線バス、コミュニティバス）及び鉄道（J R西日本、一畑電車）、航路（隠岐汽船）により形成されている。

- 鉄道 J R西日本（山陰本線・木次線）、一畑電車
- 航路 隠岐汽船（七類港～隠岐諸島）
- バス
路線バス 一畑バス 9系統 1日約280便
松江市交通局 10系統 1日約380便
日ノ丸自動車 1系統 1日 26便
コミュニティバス 4条路線 9地区17路線
78条路線 5地区21路線



人口カバー率
約97% (H22調査)



松江市の公共交通の抱える問題点・課題

人口減少社会への対応	増加する高齢者と人口減少への対応
交通弱者に関する課題	高齢者の免許保有率の上昇など
行政負担に関する課題	路線バスとコミバスへの財政負担の増加
観光都市としての課題	自家用車から公共交通にどう転換させるか
利便性向上と意識改革	現状のニーズとのミスマッチの軽減・解消

松江市公共交通利用促進市民会議の開催状況

第1回（6月2日）	計画の概要及びスケジュール確認
第2回（8月31日）	市民アンケートの内容について
第3回（11月4日）	市民アンケート結果の速報値について
第4回（12月27日）	計画の基本方針及び骨子について
第5回（2月下旬予定）	計画内容の精査・ブラッシュアップ
第6回（3月中旬予定）	計画案の最終確認

事業の結果概要及び今後の取り組み予定

- ・現計画の評価として「目指そう値」「数値目標」を含め、すべての実施項目について検証・評価を行った
- ・市民10,000人アンケートにより各種施策の認知度、将来の利用可能性や満足度などニーズの指標となるデータが取れた
- ・ニーズ調査の結果や統計データから現状の公共交通に関する問題点・課題の洗い出しを行った
- ・第1回～第4回までの松江市公共交通利用促進市民会議での議論により、基本方針が決定された
- ・2月・3月の同会議で各種施策など引き続き計画の中身を議論し、網形成計画の取りまとめを行う

計画策定にあたっての調査の概要

前計画の評価	地域公共交通総合連携計画の実施計画69項目の評価
現況把握	①上位・関連計画の整理 ②各種統計データの整理 ③公共交通データの整理 ④ニーズ調査 ・市民10,000人アンケート ・市民ワークショップ ・交通事業者ヒアリング
課題整理	ニーズ調査で把握した問題点・課題等の整理を行う
取りまとめ	基本方針・事業計画の検討→計画の取りまとめ
協議会の開催	松江市公共交通利用促進市民会議の開催

事業実施の適切性

計画通り事業は適切に実施された

- ・市民10,000人アンケートにより現状のニーズ把握ができた
- ・松江市公共交通利用促進会議において、市民・企業・事業者・行政それぞれが松江市の公共交通に関する課題を共有できた

地域公共交通網形成計画等の策定に向けた今後の方針

- ・前計画を評価検証したうえで、公共交通を取り巻く状況やニーズ調査の結果を踏まえた追加・修正を行い、**実施計画を再設定**
- ・**「持続可能な公共交通」**という視点を重視し、基本方針に「持続性確保」という大項目を追加し、中長期を見据えた路線バスやコミュニティバスの運行体制のあり方の検討を行う
- ・**“網”計画にふさわしい、他の交通モードとの連携**について検討を行う。特に、住民が主体となった共助による移動手段の導入可能性（例：自治会輸送など）やタクシーなどの他モード、広域交通との連携を図っていく
- ・計画期間中に**地域公共交通再編実施計画の策定**を目指す